

魅力1 **すべてが自立に向かう構成**

家庭基礎・家庭総合とも、将来の生活設計に

向けて、全ての学習が集約される全体構成。

家族・家庭 家庭基礎 p.8 ~ 27, 家庭総合 p. 12 ~ 37



高齢期 家庭基礎 p.48 ~ 57, 家庭総合 p.64 ~ 81



食生活 家庭基礎 p.72 ~ 109, 家庭総合 p.92 ~ 151



住生活 家庭基礎 p.132 ~ 147, 家庭総合 p.190 ~ 209



最初のページで小・中・高校の家庭科の学習内容が把握できます。

人間のかかわり方の学習

青年期・家族・家庭

保育

高齢期

共生社会

世代をこえた交流の題材が充実



日々の生活の営みの学習

食生活

衣生活

住生活

消費・経済・環境



つくってみたいくなる
実習例・製作例が豊富

生活設計 家庭基礎 p.172 ~ 183, 家庭総合 p.240 ~ 251



学習のまとめとしての「生活設計」では、教科書の他の学習と関連させて、キャリアを考えることができます。

保育 家庭基礎 p.28 ~ 47, 家庭総合 p.38 ~ 63



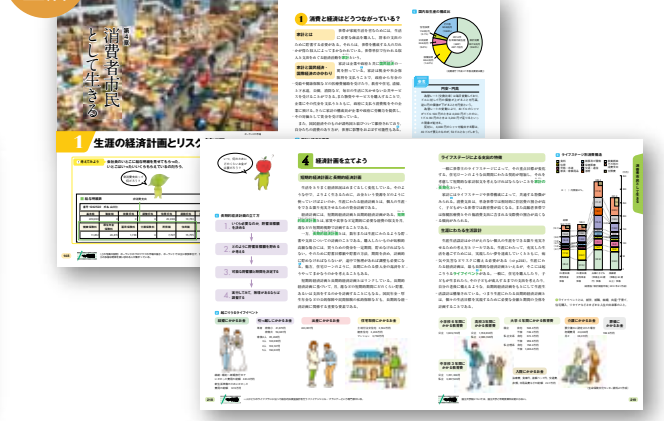
共生社会 家庭基礎 p.58 ~ 69, 家庭総合 p.82 ~ 89



衣生活 家庭基礎 p.110 ~ 131, 家庭総合 p.152 ~ 189



消費生活 家庭基礎 p.148 ~ 171, 家庭総合 p.212 ~ 239



新しい教科書では、すべての「自立」に向けて、知識・技能を身につけ、アクティブ・ラーニングに取り組めるように、家庭基礎・家庭総合ともに構成が同じです。その集大成となる「生涯の生活設計」に、12頁を設けています。

また、各内容が小・中学校の内容の積み上げの上にあるように編集しています。

高校生の自立のための長期的な視点は、小・中・高校の教科書を発行している開隆堂ならではの構成です。

教科書作成で目指したこと

家庭科を取り巻く環境は厳しく、実習があり授業準備が大変であるにもかかわらず、その時間が保障されているとはいえない状況です。「自立した生活者を育てる」という目標を達成するためには、基礎的知識を伝えるだけではなく、多様な意見を巡って討論し、自分で判断できる力を育む授業が望まれますが、勤務形態のちがいや経験が浅い場合は、なかなか取り組みにくいのが現実です。これらをサポートするために、経験や勤務形態にかかわらず、自立に向かう授業が展開できる教科書づくりを目指しました。

編集する際に大切にしたのは以下の点です。

- 見開き構成と導入課題の設定
- 科学的な視点による丁寧な気づき
- 課題を追求し、生活を創り上げるための問いかけ

それぞれの先生の個性があふれ、生徒がわくわくと前向きに取り組む授業づくりは、先生自身の意欲にかかっています。そのために是非、本教科書をじょうずに活用して頂きたいと思ひます。

著者代表 大竹美登利

